

2 遊びでつながる

事例 6

「このお話、知ってるよ！」 ～絵本を友達と共有するうれしさ～

5歳児 1月(在日2年)

こんなきっかけ
みつけたよ！

2年前にほとんど日本語が分からない状態で入園したA児。保育者はA児が日本語を身に付ける上で、家庭で使う母語が大切であると考え、日頃からA児への言葉掛けの中に母語(韓国語)を取り入れるようにしてきた。

保育者が絵本の読み聞かせをしていると、A児は日本語が分からないながらもクラスの友達と絵本を見ながら、その場面の面白そうな様子や雰囲気を楽しんでいた。少しでも物語の世界に入って楽しめるよう、保育者は絵本に出てくる簡単な単語をA児にも分かるよう、韓国語を添えながら読むように心掛けていた。



クラスの子供たちに、絵本を通してA児の母国の文化に触れる機会がもてるようにしたい。

A児にも、母国の親しみのある物語の世界を楽しんでほしい。



こうしたよ！

日本語と韓国語と両方の言葉で物語が楽しめる絵本はないかと探し、A児の保護者に相談すると、日本の昔話と似ている韓国の昔話「フンプとノルブ」を提案してもらった。どちらの言語も話せるA児の保護者にも協力してもらい、読み聞かせをすることにした。

数日は保育者が日本語で何回か読み聞かせたり、A児の家にある絵本を皆が見られるように保育室に置いたりした。興味をもち、絵本を開いて見ている子もいれば、A児が「これ、Aの絵本なの。このお話、知ってるよ」と友達にうれしそうに伝え、一緒に見たりすることもあった。

言語が違って、絵や場面からイメージをもつことができる絵本であれば、楽しさを共有できると考えました。





【読み聞かせの場面】

A児の保護者による韓国語での読み聞かせの日、子供たちは身を乗り出して絵本に見入っていた。初めて韓国語を聞く子は「韓国語、かっこいいね」と声にする姿もあった。読み聞かせを聞き、絵を見ながら、お話の世界をイメージしている様子もあり、「やさしいね」「仲良くなってよかったね」と友達同士で話す姿も見られた。

A児の保護者による韓国語での読み聞かせの日、子供たちは身を乗り出して絵本に見入っていた。

初めて韓国語を聞く子は「韓国語、かっこいいね」と声にする姿もあった。

あらかじめ、絵本のストーリーや話の展開の面白さを知っておくことで、A児も含めて皆で一緒にイメージを膨らませて韓国の昔話を楽しむことができました。



ここが大事！

絵本は文化の違いを超えて、皆で一緒に楽しめます

絵本は国境や世代を越えて、いろいろな国の物語に出会えます。言葉が分からなくても、その絵本の世界に広がる楽しさを共有することができます。また、それぞれの国の物語には、文化的な背景が描かれ、絵本を見ることを通して、子供たちはその国の文化に触れることができます。園生活の中で毎日親しむ絵本は、子供が言葉や文化の違いに関わらず、友達と共に楽しめる教材として活用できます。

解説 韓国の昔話「フンブとノルブ」（あらすじ 紹介）



昔々、欲張りな兄のノルブと心優しい弟のフンブが一家共々一緒に暮らしていました。両親亡き後、ノルブはフンブ一家を追い出してしまいました。

ある日、フンブは足を怪我したツバメを助きました。

元気に回復したツバメは、フンブにウリの種を贈り、その種から育ったウリを切ると、中から米と財宝が現れ、フンブ一家は裕福になりました。

話を聞いたノルブは、わざとツバメの足を折り種をもらい育てます。しかし、ノルブがウリを切ると、恐ろしい鬼（トッケビ）が現れ、財産を奪いました。

全てを失ったノルブに心優しいフンブは米と食べ物を分け与えました。ノルブは涙ながらに謝罪し、その後、兄弟は家族と共に幸せに暮らしました。

❖日本の昔話と同様に、子供は登場する人物の言動から、善悪の判断や生き物を大切に作る心、相手への思いやりなど、様々なことを感じ取っていきます。